

特定非営利活動法人 よこはま里山研究所
第 15 期(2014 年 7 月～2015 年 6 月)通常総会
議案書

- ・第1号議案 第 14 期(2013 年 7 月～2014 年 6 月)事業報告
- ・第2号議案 第 14 期(2013 年 7 月～2014 年 6 月)決算報告
- ・第3号議案 第 15 期(2014 年 7 月～2015 年 6 月)事業計画
- ・第4号議案 第 15 期(2014 年 7 月～2015 年 6 月)予算

日時:2014 年 8 月 24 日(日)15:00～17:00

場所:はまどま(横浜市南区宿町 2-40-119)

第 1 号議案 第 14 期事業報告（2013 年 7 月～2014 年 6 月）

第 14 期は、全体的には安定期にあったと言えるが、数年後にふりかえてみると、転機として記憶されるかもしれない 1 年であった。

まず、ノラ事業は大きく見直し、「NORA の野良仕事」「ヨコハマで農業体験」「休耕地再生で農体験」は終了したが、厚木市七沢で「森と畑と音楽と」を開始した。NORA としては事業を継続し展開していく難しさに直面する一方、農業や農的暮らしに光が当てられる社会状況になっている。ここで、ブームに乗じて活動を展開するよりも、基本・原点に立ち返って、農地や農業についての学習、生産者との対話・交流の機会を増やしていきたい。

次にムラ事業であるが、「はまどまの集い 2013・秋」を開催したことを始め、地域との関わりをより深めることができた。また、旧はまどま運営委員以外の会員や会友がスタッフ側として運営に関わる機会も増えてきた。こうした実績を積み重ねることにより、「はまどま」が会員にとって、そして蒔田周辺地域にとって実質的な居場所となる基盤ができてきた。2014 年 5 月から、平日にスタッフがほぼ常駐できる体制となったことで活動の展開を図りやすくなり、また、「トンボはドコまで飛ぶかフォーラム」に加入したことにより森里川海の間で連携しやすい環境が整いつつある。

個別のプロジェクトについて見ていくと、「もったいないから竹細工」は昨期と比較して参加者数が 80% 近く増加した。竹かご教室の進め方を変更し、1 年を通して 7 作品を制作し、その後は竹細工工房での作業へと移行するという制度も定着しつつある。第 14 期から開始した「はまどまで土間仕事」は、まだ試験段階ではあるが、NORA らしい企画として育てていきたい。一方、「筆で描こう～手書きの時間」「はまどまシアター」「お話の会～はまどま劇場」などは、プロジェクトの位置づけをあらためて考える時期にあるだろう。今後は、企画をよく練った上で広報にも努め、「はまどま」の新たな魅力として情報を発信していく必要がある。

ヤマ事業は、「NORA の山仕事」で参加者数が安定してきたこと、また、神奈川県から補助金を得たことにより、必要な事業経費の一部を支払えるようになったのは良かった。しかし、県の補助事業については管理体制が不十分で、部門別では大きな赤字を計上した。今後は、管理体制を強化するとともに、間伐材や森林空間の活用、企業の参加誘致やリピート率の向上などにより、収益性の改善も図りたい。「よこはま里山レンジャーズ」についても、目的と収益のバランスの取り方を検討していきたい。

広報事業では、ソーシャルメディアでの情報発信は活発だったのに対して、ウェブサイトの更新は滞りがちだった。来期はサイトのリニューアルを予定しているので、あわせて広報戦略を練り直す必要がある。受託事業は、近年、減少傾向にあるものの、現在のスタッフ体制では仕方がない面もある。会員収入の増加に努めたいところだが、受取会費が予算比の半分程度にとどまった。まずは会員に対して活動実績を伝えて会費の支払いを求めるとともに、イベントに繰り返し参加しているリピーター会友に対しては、積極的に入会を勧めていくことが必要である。

2013 年 7 月に刊行された『里山資本主義』が新書ベストセラーとなるなど、あらためて里山ブームというような状況になっているが、近年は農山村での経済活動と結びついた動きが顕著であり、都市側での展開は相対的に弱い。それでも、地産地消、発酵食品、手仕事が見直されており、総務省の調査結果などから若者の農山村志向も高まっていることも確実である。こうした時代状況の奥底にある根源的な社会ニーズを探るとともに、今後のあるべき社会のあり方を考えながら、着実に活動を実践し、「里山とかかわる暮らし」を広げながら、ポスト 311 の確かな社会変化を促す動きに連なっていきたい。

自主事業

里山（樹林地や農地等）の保全・活用、里山と人をつなぐ活動

1. ヤマ事業

1) NORA の山仕事（平成 25-26 年度神奈川県水源環境保全・再生市民事業支援補助金）

川井特別緑地保全地区（旭区下川井町）をフィールドに、「利用する森」をコンセプトにして、手入れによって豊かな森をつくとともに、森の恵みを様々なかたちで利用して、森とかかわる暮らしを横浜で実践する活動をおこなっている。毎月第 2・第 4 日曜日の定例活動日に作業を実施した。

第 14 期は、間伐材の製材や薪材づくり、林床整理や苗木作りなどを積極的におこない、林内整備に積極的に取り組む事ができた。のべ 223 名（昨期 231 名）の参加者があり、平均参加人数は約 10 名を維持している。横浜建物協同組合や住宅販売メーカー BESS などの企業研修の場として利用される機会を得た。その反面、製材事業の受注減など、収支面での課題が残った。第 15 期では、参加者が達成感を共感できるメニュー作りや、「和み系」メニューを主軸とした林内スペースの活用方法を検討したい。また、材を有効活用するために、保管方法や作業の進め方なども見直したい。間伐材やスペースを活用することで、企業の参加誘致やリピーター率を向上させ、収益性の改善を図りたい。

実施日	活動内容	参加人数	スタッフ
7/14（日）	製材、皮むき、林床整理、薪材加工	10	1
7/28（日）	製材、皮むき、林床整理、広葉樹名札付けなど	10	1
8/11（日）	製材、皮むき草刈り	7	1
8/25（日）	雨天中止	0	0
9/8（日）	草刈り（栗林・小麦畑）、畑ごはん（山仕事）、小麦脱穀	12	1
9/22（日）	草刈り、集草、西谷ネギ定植	5	1
10/13（日）	間伐材の運材（風倒木）、乱積み丸太玉切り、林床整理	6	1
10/27（日）	間伐材の運材（風倒木）、林床整理	8	1
11/10（日）	林床整理	13	1
11/24（日）	間伐 2 本	7	1
12/8（日）	間伐 3 本、林床整理、樹皮焼却	8	1
12/22（日）	間伐 3 本、林床整理、シラカシ運材、皮むき丸太移設、樹皮焼却	16	1
1/12（日）	間伐、林床整理	11	1
1/26（日）	間伐枝の再集積、間伐	6	1
2/9（日）	積雪のため中止	0	0
2/23（日）	チップ化支援、運材、移植先除伐、間伐 2 本	13	1
3/9（日）	物置移設基礎工事	5	1
3/23（日）	配水管埋設、物置組み立て	12	1
4/13（日）	運材、皮むき、林床整理、萌芽除去、林縁部開墾	28	1
4/27（日）	製材、林床整理、林縁部開墾、物置移設	9	1
5/11（日）	製材、運材、林床整理（林縁部）	14	1

5/25（日）	コナラ苗株分け、運材、林縁部苗植樹	13	1
6/8（日）	道路・林縁部草刈り、物置補修準備、ほだ木被せ置き、ナメコ駒打ち	6	1
6/29（日）	物置屋根補修（6/22（日）雨天のため順延）	4	1

223

22

2) よこはま里山レンジャーズ

認定 NPO 法人自然環境復元協会（NAREC）との連携プロジェクト「よこはま里山レンジャーズ」は、若い世代が市内の民有樹林地の保全活動に参加する支援システムを整備する「森づくり団体の作業お助け整備事業」として、平成 24 年度に横浜市「みどりの夢かなえます事業」の助成を受けて開始した。本事業は NAREC の「レンジャーズプロジェクト」に登録したレンジャーが、各フィールドからの出動要請に基づいて、保全活動に参加するもので、概ね 10 名単位で参加するため、初めてのフィールドでも参加しやすいという長所がある。今期は、助成期間が終了したこともあり、おもに NORA 関係者が日常的に活動しているフィールドを中心にレンジャーズを派遣した。市内 9 ヶ所の公園や樹林地において、のべ 14 回実施し、153 名のレンジャーズの参加があった。

一方で今期の新たな試みとして、指定管理者が運営している公園を対象として、有償によるレンジャーズ派遣をおこなった。今後、外部からの資金調達が課題となるが、「横浜にとんぼを育てる会」で試みたように、活動団体が実施するイベントへの有償派遣もひとつの方策と考えられる。

回	実施日	実施場所	受入団体	参加者
1	7/7（日）	入船公園	日産クリエイティブサービス(株)	11
2	7/27（土）	新治の谷戸田	NPO 法人新治里山「わ」を広げる会	10
3	9/22（日）	瀬上市民の森	瀬上さとやまのりの会	7
4	9/28（土）	恩田の谷戸田	な〜に谷っ戸ん田	11
	10/5（土）	入船公園	日産クリエイティブサービス(株)	雨天中止
5	11/2（土）	入船公園	日産クリエイティブサービス(株)	13
6	11/16（土）	瀬上市民の森	瀬上さとやまのりの会	6
7	11/24（日）	恩田の谷戸	恩田の谷戸ファンクラブ	9
	12/7（土）	川井緑地	NPO 法人よこはま里山研究所	雨天中止
	2/9（日）	川井緑地	NPO 法人よこはま里山研究所	雨天中止
	2/15（土）	桜ヶ丘緑地	桜ヶ丘・水辺のある森再生プロジェクト	雨天中止
8	3/9（日）	カーリットの森	“カーリットの森”を守る市民の会	13
9	3/15（土）	桜ヶ丘緑地	桜ヶ丘・水辺のある森再生プロジェクト	13
10	3/23（日）	入船公園	日産クリエイティブサービス(株)	12
11	4/13（日）	川井緑地	NPO 法人よこはま里山研究所	17
12	4/27（日）	カーリットの森	“カーリットの森”を守る市民の会	12
13	5/17（土）	新治の谷戸田	NPO 法人新治里山「わ」を広げる会	15
14	6/14（土）	元町公園プール	横浜にとんぼを育てる会	4

153

3) 竹を活かす山仕事（平成 25-26 年度神奈川県水源環境保全・再生市民事業支援補助金）

手入れが行き届かなくなった竹林は拡大して、農耕地や生活環境を侵食するなど、里山の景観に大き

な影響を及ぼしている。竹林を手入れすることで畑を守り、里山生態系のバランスを保つために、原則月1回、中井町でお世話になっている農家の竹林を整備した。2013年4月より、「神奈川県水源環境保全・再生市民事業」として事業を実施している（8月と9月は酷暑のため、2月は日程を天候不良のため中止した）。伐出した竹材は竹細工の製作や竹かご教室の材料として活用した。第14期も月ごとの新規申し込みがある一方、参加メンバーの安定化が見られ、のべ36名（昨期26名）の参加者があった。

実施日	活動内容	参加人数	スタッフ
7/7（日）	間伐、材の伐り出し、孟宗伐り出し	2	1
10/6（日）	間伐、材の伐り出し	3	1
11/3（日）	材の伐り出し、間伐	3	1
12/1（日）	材の伐り出し、根っこ堀り、間伐	4	1
1/19（日）	間伐、材の伐り出し	1	1
2/16（日）	（3/2（日）に延期も、雨のため中止）	0	0
3/16（日）	雪倒竹徐伐、材の伐り出し	5	1
4/5（土）	筍堀り、材の切り出し、間伐	6	1
5/18（日）	材の伐り出し（竹馬用30本）、間伐	6	1
6/15（日）	材の伐り出し、間伐	6	1

36

9

4) 山道具の安全使用

株式会社シンコー社とサブ店契約を結んで（2011年6月）、チェーンソーメーカー（スチール STIHL）の代理店業務を担い、より安全性を高めた緑地保全活動の啓発をすすめている。第14期は森林整備実施団体や個人へバイオチェーンオイルやチャプスなど環境に配慮した物品類を販売するとともに、チェーンソーの修理をおこなった。

5) 『ミルマップ・ワークショップ！～みんなで描く森づくりプラン』の普及・頒布

横浜市が2013年3月末に『森づくりガイドライン』を改訂・発行し、その中に本冊子が紹介されているが、すでに在庫が残り少なくなっている。増刷も検討したが、一部修正を施し、ネット上でダウンロードできるようにすることを決めた。

2. ノラ事業

1) 休耕地再生で農体験

2011年4月から、「ヨコハマで農業体験」でお世話になっている生産者と農地維持管理契約を結び、旭区下川井町にある農地7反を維持管理してきた。この事業への協賛者とともに、農地で野菜の育成や収穫も継続的に実施した。また、横浜建物管理協同組合や介護老人保健施設、星嗟国際高等学校や未就学児童達など、幅広い層にわたり収穫体験を受け入れてきた。

第14期も原則毎週月・水・金曜日に活動を実施し、収穫体験の受入等のべ94名の参加者があったが、2014年3月末をもって事業を終了した。

実施月	のべ日数	活動内容	参加人数	スタッフ
7月	13	夏野菜の収穫および管理作業、草刈り、	16	13
8月	13	夏野菜の収穫および管理作業、草刈り、冬野菜準備	9	13
9月	11	夏野菜の収穫および管理作業、草刈り、冬野菜準備	9	11
10月	13	冬野菜準備、夏野菜の片付け、栗拾い体験受入	40	13
11月	13	冬野菜の収穫および管理、芋掘り体験受入	7	13
12月	12	冬野菜の収穫および管理	5	12
1月	10	冬野菜の片付けおよび、事業終了準備	2	10
2月	10	事業終了準備	2	10
3月	9	事業終了準備	4	9

94

104

2) ヨコハマで農業体験

2008年7月（NORAとしては2010年）から、横浜市保土ヶ谷区で土づくりから品種や鮮度にもこだわって野菜を生産している生産者の農作業をお手伝いしてきた。近年リピーターの定着が課題となっていたが、第14期は酷暑や参加者が不在のために事業中止が度重なった。第3土曜日を定例活動日としたが（7-8月は猛暑のため休み）、実施回数は2回に留まり、のべ参加人数は9名であった。2014年3月末をもって事業を終了した。

実施日	活動内容	参加人数	スタッフ
9/21（土）	草取り、収穫	7	1
10/19（土）	参加者不在のため中止	0	0
11/16（土）	参加者不在のため中止	0	0
12/21（土）	ほうれん草の収穫	0	1
1/18（土）	参加者不在ため中止	0	0
2/15（土）	中止	0	0
3/15（土）	生産者都合により中止	0	0

7

2

3) NORAの野良仕事

農作業を通して、自然と暮らす知恵や技や考え方を学び・身につけるとともに、いずれは自分たちの手で野良仕事の場を、身近に野良のある日常を創ることを目指すプロジェクト。今期は1回のみ実施。2008年より正式にスタートした本プロジェクトは今期をもって終了。

「NORA 野菜市」等に野菜を提供してくださる神奈川県内の2軒の生産者に受入れていただき、生産の現場で農家さんの想いをうかがいながらの1日農作業の手伝いを月1回～季節1回のペースでおこなったほか、2009年には「田んぼ編」として社会福祉法人グリーンの協力にて一年を通して稲作作業手伝いの機会を得た。

単日の農作業手伝いと敷居も低く、受入れ間口も広く設けたため、参加者は将来就農を目指す方、趣味的に農作業を体験してみたい方、アート野菜市を企画する方、心身療養の一環としたい方など、都市生活者の農や農作業への関心の高さ・幅広いニーズをうかがえたが、参加後の参加者への次の道筋の提

示の難しさ、受入れ農家さんへのリターン、受入れ負担等課題も見えた。一方で、本プロジェクトでは3名のスタッフ自身が生活の中で野良仕事への関わりを探る側面もあり、そちらについては各々仕事や学びの機会を得るなど達成できた。今期でプロジェクトは終了となるが、お世話になった農家さんとの交流は今後も続けていきたい。

実施日	場 所	内 容	参加人数	スタッフ
12/15（土）	柏木さんの農園（小田原市下曾我）	みかんの摘果	4	2

4) 森と畑と音楽と

丹沢東麓に位置する厚木市の里山における活動。5年ほど前から地域の有志グループが畑を管理・活用していたが、高齢のため活動回数が減り、畑の管理がままならなくなった。2013年秋に、若い世代でこの場所を活用できないかとの相談を受け、2014年度から手探りでスタートした。

活動目的は、農地の管理を行うことが第一である。しかし、参加者を増やすために、様々な仕掛けが必要となる。そこで、「自然の中での様々な活動を通じて、幅広い年齢層、異分野の人々が集い、有機的に結びつく空間の創造」を目標として、この土地に、多くの人が関心を持ち、活動に来ることが楽しいと思えるような活動を行い、長期的に活動できるシステムをつくりたい。

	期 間	活動目標
短期	2014 年（1 年）	フィールドの現状把握・環境整備（ハード面） 運営システムの整備・中核的スタッフの発掘・管理作業
中期	2014 年～2016 年（2～3 年）	プログラム（ソフト面）の充実・情報発信
長期	2015 年～	プログラムの活用・参加者のニーズに対応する運営

第14期は栽培とフィールドの環境整備を中心に活動を行った。活動日は約20日間で、草取りや草刈りに最も時間を費やした。春～初夏にかけては活動日ごとに草取り、草刈りを行った。主な参加者は20～30代で家族での参加もあった。

中核スタッフは本業がありながらの活動なので、維持管理に労力を割かれてしまい、新しいことをおこなう時間がないのが現状である。今後は常駐的スタッフとして、学生に積極的に関わってもらうことで解消していきたい。また、維持管理の工夫をして、作業に追われないように努めたい。

今後の活動としては、8月に実施予定の「こどもキャンプ」に向けて環境整備を急ぐ。トイレの設置、ウッドデッキの設置、水の確保、倒木処理などを進めていく。また、シカの食害防止のための防護網の設置もおこなう。環境整備後、一般参加者を受け入れる体制をつくっていききたい。

実施日	活動内容	参加人数
11/10(日)	草刈り、ゴミ集め	2
11/17(日)	野菜収穫、薪作り、披露パーティ（BBQ）、演奏会	27
12/24(火)	ヒノキ間伐材丸太の搬入	2
3/26(水)	ツクシ採り、野菜収穫（ブロッコリー）、倒木処理	1
4/13(日)	野菜収穫（高菜）、耕耘、堆肥鋤き込み、畝立て、マルチ敷き、枯枝切り 野菜植えつけ（ジャガイモ・サトイモ・ショウガ・キクイモ・カボチャ） 種まき（枝豆・ハツカダイコン・水菜・レタス・チンゲン菜）、ゴミ集め	5
4/27(日)	枯枝切り、草刈り	3

5/3(土)	ヒノキ間伐材丸太の皮むき	2
5/4(日)	野菜の収穫(ハツカダイコン・チンゲン菜・フキ・水菜)、披露パーティ(BBQ)	17
5/10(土)	フキ採り、演奏会、草取り、枯木伐採、切り株抜根、薪作り	8
5/17(土)	野菜収穫(ハツカダイコン・チンゲン菜・レタス・水菜)	1
5/18(日)	野菜の収穫(ハツカダイコン・チンゲン菜・フキ・水菜・タケノコ) 草刈り、切り株抜根、薪作り	7
5/19(月)	クリの倒木処理(薪作り、抜根)、種まき(ハツカダイコン)	7
5/25(日)	野菜の収穫(ハツカダイコン・レタス・チンゲン菜・水菜)、草取り	2
5/30(金)	野菜の収穫(レタス・チンゲン菜・水菜)	1
5/31(土)	畝間の草取り、苗植え付け、野菜収穫(タマネギ)	2
6/14(土)	畝間の草取り、草刈り	2
6/15(日)	畝間の草取り、草刈り	2
6/21(土)	畝間の草取り	2
6/23(月)	苗植え付け(ナス・ピーマン・トマト・オクラ・モロヘイヤ・ネギ・サツマイモ)	2
6/28(土)	こどもキャンプ下見、草刈り、演奏会	6

101

持続可能な地域コミュニティづくり、暮らしの提案、イベントの企画・運営

3. ムラ事業

1) はまどまプロジェクト

「はまどま」発足後、2014年6月で丸6年が経過した。第14期は、「竹細工教室」「神奈川野菜の食事会」「筆で描こう」「お話の会～はまどま劇場」「はまどまシアター＝民族文化映像研究所の記録映画を観る会」「香りをつくる」に加え、「はまどまで土間仕事」として味噌の仕込み、梅酒づくり、らっきょう漬け、糠床づくりなどを実施することができた。

里山を暮らしに活かす都会の入り口として、町内会活動への参加を心掛けてきたが、町内会が「はまどま」に期待する取組みを模索する中で、第14期にはいくつかの前進があった。11/16(土)～17(日)には、「はまどまの集い2013・秋」として2日間の文化祭的プログラムを組み、蒔田地域の終戦間際、横浜大空襲から敗戦直後の様子を、当時10歳の少年だった坪崎氏に伺うことができた。また、宮宿花1・2丁目町内会の写真展を開催し、健民祭の様子を展示、多くの町内会の皆さんにご覧いただいた。この取組みは、2014年度に南区から助成を受け、町内会への加入促進を目的とした「昔カルタ」づくりの実行委員会に参加することへと繋がった。「はまどまの集い」の試みは、今後の「はまどま」での活動のひとつの方向を指し示したともいえる。また、「はまどま」で盆踊りの練習会を催すなど、町内会の皆さんが「はまどま」を利用する機会が増えつつある。春の「蒔田公園ふれあいパークまつり」への出店につづき、12月の「光のぷろむなあど」へ初出店したので、今後は恒例の参加を目指したい。

さらに、第14期の成果として、会員・会友がスタッフ側として活躍する機会が増えてきたこともある。たとえば、「はまどまの集い」で会員が小笠原について話題提供したことが契機となり、その後、「NORAサロン」の復活へとつながった。会友がスイーツバイキングを担当し、食事会でもフードコーディネーターの会友が積極的に料理づくりを担うなどして、参加者から好評をいただいた。

さまざまな企画では、可能なかぎり、生産者と交流できる食材を使って「食卓」を囲みたい。今後は「食事会」とつなげる企画が増えると思われる。一例として、1月に催した「お米の食べ比べ会」など、テーマが明確で、多くの会員・会友が活躍できるようお誘いしていきたい。もちろん、会友の皆さんには、入会をお勧めしながらである。

なお、「はまどま」には長らくスタッフが常駐できない状況であったが、2014年5月から、ほぼ常駐できることになった。あわせて、横浜産の木材による棚を新調したり、新たに備品が整えられるなど環境改善が試みられたことも付け加えておく。

(1) NORA 野菜市

毎週火曜日 17～19 時、大和ビル駐車場にて神奈川県内産・生産者限定の野菜市を開催した。身近な交流のできる生産者からの作物の野菜市。地域の人々の暮らしに定着しており、若い世代の利用が増えている。地域の皆さんのコミュニケーションの場としても活かされている。何人かが、ボランティアで応援してくださるのがありがたい。

NORA として、農業についての学習をすすめたいという課題に対して、何らかの貢献ができる取り組みを心がけたい。地産地消が言われるようになって以後、この 10 年で県内農産物の生産・流通・需要はどう変化し、今後どのような課題が考えられるのか。栽培方法の変化（無農薬・無化学肥料栽培や不耕起栽培などの実際）や、従来の減農薬・減化学肥料栽培の農法（野菜市のほとんどはこの範疇）、伝統野菜の種を守り普及する取り組みなど、県内外を問わず情報を交換し、可能であれば農産物を取り扱うなど、野菜市を利用する皆さんへの情報と作物の提供を努めたい。

(2) 神奈川野菜の食事会

2014 年 6 月で 87 回となる食事会だが、第 14 期はのべ 164 人（第 12 期 197 名→第 13 期 195 人）の参加者があった。食事会に参加してくださる皆さんの「食」に対する関心の高まりを感じている。外食でも、地産地消の素材で食事をとることができる店が増えた。神奈川の交流のできる生産者の作物のおいしさを「試食」してほしいという、食事会を始めた当初の目的は基本ではあるが、NORA の食事会らしさという個性を表現したい。テーマを掲げた「物語のある食卓」であり、可能であれば「生産者とともにする食卓」である。同時に、会員・会友に企画に加わっていただく機会をさらに増やしていきたい。

回	実施日	内容	参加人数
79	8/3（土）	ブルーベリーの摘み取りと流しそうめん	54
80	10/5（土）	新米と芋、大豆、栗、植村味噌	19
81	11/3（土）	秋野菜満載ごはん	15
82	12/1（日）	炊込ご飯、ミホさんオリエンタルレシピ	9
83	2/23（日）	味噌仕立て鍋、大根尽くし献立	11
84	3/30（日）	たけのこご飯、蒸し野菜	12
85	4/14（月）	浅利と炭火で筍、野菜、肉焼き	24
86	5/12（月）	勝野伊勢奈良食材の食事会	12
87	6/22（日）	富貴の茗荷と甘夏寿司	8

164

(3) もったいないから竹細工（平成 25-26 年度神奈川県水源環境保全・再生市民事業支援補助金）

里山では手入れされなくなった竹林が生い茂って、邪魔物として扱われている。かつては有用だった

竹を生かせないのはもったいない。そこで、竹林を整備するときに出てくる竹材を有効に生かすために、竹細工に挑戦している。竹の廃材を竹ひごに加工し、編み方を六つ目編みに特化して、花器や籠など様々な作品作りに取り組んでいる。第14期では、竹かご教室の内容を変更し、参加者は1年12回で7作品を製作した段階で1区切りとすることにした。そして、修了者には竹細工の工房作業へと移行していただき、自ら材（竹ひごなど）の製作をおこない、竹かごや竹細工の製作を勧めることとした。竹かご教室にはのべ82名（昨期49名）、工房作業にはのべ42名（昨期21名）と合計124名（昨期70名）の参加者があり、多くの人数を集めることができた。近年は、インターネットを通して教室の存在を知ったという参加者がほとんどである。各回定員10名の竹かご教室には参加希望者が多く、断らなくてはならないことも増えてきた。

【竹かご教室】

実施日	活動内容	参加人数	スタッフ
7/13（土）	六つ目籠	4	3
8/10（土）	六つ目籠、菱四つ目籠	4	3
9/28（土）	菱四つ目かご、六つ目かご	7	3
10/12（土）	菱四つ目かご	4	3
11/9（土）	四海波かご、収穫かご	9	3
12/7（土）	収穫かご	7	3
1/11（土）	六つ目四角かご、六つ目かご、四海波かご	10	3
2/8（土）	六つ目四角かご、六つ目かご	4	3
3/1（土）	六つ目かご、四海波かご	10	3
4/5（土）	菱四つ目、四海波、六つ目四角	6	2
5/10（土）	四海波、菱四つ目、六つ目四角	8	2
6/14（土）	丸口花かご、四海波	9	2

82 33

【竹細工工房】

実施日	活動内容	参加人数	スタッフ
7/27（土）	流し素麺水路	2	1
8/24（土）	竹へら作り	2	1
9/14（土）	竹へら作り、ヒゴ作り	4	1
10/26（土）	へら・スプーン作りなど	2	1
11/23（土）	食器づくり	5	1
12/28（土）	ミニ門松	6	1
1/25（土）	竹ひご作り	3	1
2/22（土）	ヒゴ作り、風ぐるま作り	5	2

3/22 (土)	竹ひご作り	3	1
4/26 (土)	ひご作り	4	1
5/31 (土)	ヒゴ作り、風ぐるま WS	4	2
6/28 (土)	ひご作り	2	2

42 15

(4) 筆で描こう～手書きの時間

第 14 期の開催数は 4 回で、昨期に比べて半減であった。ただし、内容に魅力がない訳ではなく、時間が合えば行きたいという意見を聞いている。「土日なら行ける」「平日なら行きたい」という 2 パターンに分かれるので、来期は平日と土日のどちらかの開催設定と、今までは 1 回完結型の講座だったが、シリーズでおこなうプログラムを考えてみたい。また、来期からは、「はまどま」で不定期にお線香つくりの講座が開催予定なので、筆とお香とのコラボで「はまどま和の時間」も企画する。

実施日	内 容	参加人数	スタッフ
1/8 (水)	新年書初め大会	2	1
2/22 (土)	基本の筆使い	1	1
3/15 (土)	基本の筆と名前を描く	2	1
7/26 (日)	額に入れて飾る文字を描く	2	1

7 4

(5) はまどまで土間仕事

第 14 期から始めた「はまどまで土間仕事」。野菜市では、梅、シソ、らっきょうなど、季節の手仕事にうってつけの果菜が販売されているので、今後若い層にそれを受け継いでもらいたいことと、手作りの美味しさを伝えたいとの思いから土間仕事を始めた。

昨今の発酵ブームや自分で保存食を作る人たちが増えてきたので、親子での参加や、HP を見て若い人が参加してくれた。今後は、十分な広報を進めるほか、「はまどま」らしさ——野菜を販売したり、野菜を使った食事も加えるなど——を追究し、お得感というよりは、ここでしかできない、他とは違う展開を企画の中に盛り込んでいきたい。

実施日	内 容	参加人数	スタッフ
2/23 (日)	味噌づくり (1)	4	2
4/13 (日)	神奈川野菜と塩麴の料理会	4	1
5/11 (日)	味噌づくり (2)	8	3
6/15 (日)	梅酒づくり	2	2
6/22 (日)	らっきょう漬け	2	2
6/29 (日)	ぬか漬け	7	1

27 11

(6) お話の会～はまどま劇場

2011 年 5 月 29 日に「朗読の夕べ」第 1 回として開始した。それ以前に、食事会の中で、「はまどま一座」として朗読や朗読劇のような催しを聴いていただいた時期がベースになっている。第 14 期はわず

かな開催にとどまってしまったが、12月8日に郷静子さんの『れくいえむ』の全編朗読、5月31日には一部朗読を催した。再び戦争をする国へと向かおうとする時代の流れに抗していかなければならない。

実施日	参加人数
7/14 (日)	4
12/8 (日)	3
1/9 (木)	10
5/30 (日)	3

20

(7) はまどまシアター

「はまどま」の活用のひとつとして、映画上映会は当初から可能性があると考えていた。それが具体的な目標になったのは、かねてより情報交流があった民族文化映像研究所（民映研）の100を超える作品群を、NORA「はまどま」に集う皆さんと共有したい、という強い欲求が生まれてきたからだ。もちろん、上映会を行うことで新たな出会いも期待できるし、民映研事務局とは京浜急行で結ばれている立地条件からも、単に映像鑑賞にとどまらず、交流を図りながら活動を進めていければと思う。

第15期の課題として、上映料に見合う参加人数を確保するために、関心を持つ人々とのつながりを持つことと、そのために長期間の準備期間を持ち計画的な取り組みにしていかなければならない。「はまどま」でのキャパシティに見合う作品の選択も必要だ。

実施日	内 容	参加人数	スタッフ
7/20 (土)	第2回『奥会津の木地師』	9	1
10/23 (木)	第3回・合計4回上映	18	4
11/2 (土)	「越後奥三面＝山にいかされた日々」		
11/3 (日)	(姫田忠義氏追悼)		

27

5

(8) NORA サロン

「はまどまの集い2013・秋」で、11/17(日)に「小笠原を蒔田で体感！～これが南1000キロの一本釣り?!」(有川美紀子さん)を開催し、第1部10名、第2部12名の参加者を得た。これをきっかけに、「復活！NORAサロン」としてNORAサロンを再開し、小笠原から始まったこともあり、八重山、アイルランド、ハワイと島シリーズを続けた。その後に、5月からおよそ2ヶ月ごとにサロンを開催していくようになった。

実施日	内 容	話題提供者	参加人数
12/6 (金)	ヨコシマな話～沖縄八重山編	松村正治	10
12/17 (火)	アイルランド☆アイランド	川嶋朋美	28
2/1 (土)	ハワイ（どこらか海外も）初心者のヨシタケが水着も持たずに行ったハワイ！キラウエア火山の山頂で過ごした6日間	吉武美保子	10
5/23 (金)	樹木医がみた大岡川の桜並木	川島一平	13

51

(9) 地域連携・その他

下記のとおり、地域連携活動に参加・応援した。

- ・8/24（土）-25（日）、町内会盆踊りと流しそうめんに協力。流しそうめんの竹を柏木圭介さんから提供してもらい、町内会のメンバーで仕上げた。3回の盆踊りの練習に参加し、加えて「はまどま」で1回練習し、「浜っ娘音頭」が町内会で初めて披露されることになった。
- ・8/18（日）、南区浦舟地域ケアプラザの「浦舟納涼祭」に野菜市で参加。
- ・9/4（水）、井土ヶ谷「カフェククル」主催「つむぐ市」に「はまどま」として参加。町内会のメンバーも加わり3名で。
- ・12/14（土）-15（日）「大岡川アートプロジェクト」には実行委員会に加わった上で参加。お絵かき煎餅初出店。野菜たっぷりカレー初出店（12/14）6名スタッフ参加。竹灯籠・竹細工とともに。12/15はスタッフ参加。
- ・4/6（日）、蒔田公園「ふれあいパーク祭り」野菜カレーライスで参加。前日4名・当日6名スタッフ参加。

4. ハレ事業

1) 伊勢佐木町地モノ市

2013年11月10（日）「第13回あなたとともにエコロジー伊勢佐木」に参加。エコ商店街・伊勢佐木町商店街の全面的なバックアップを得て「地モノ市」を開催した。前日準備に10名、当日スタッフに13名のボランティアスタッフの参加を得ることができた。（有）神奈川農畜産物供給センターからも参加を得て1名。県内・市内産の即売が各地で行われるようになり、あらためて、NORAの地モノ市のかたちを考えていきたいと思う。

スタッフ参加の皆さんにとって、年に一度の非日常的な取り組みであり、生鮮野菜に触れる機会だが、お客様とのコミュニケーションも楽しめるような情報の提供や、試食の充実など、準備を工夫したい。

2) まいたエコサロンの会

地域の環境活動拠点として各団体が協働で動き始め、会をPRできた年であった。「まいたエコサロンの会」として初めて、協働で3つのイベントに出展し情報発信をおこなった。

- ① 7/27-28、南まつりの同時開催という位置づけで、各登録団体がプログラムなど自由に出展。
- ② 9/28、ワンデイキッズパーク参加・支援。
- ③ 12/14-15、光りのぷろむななどに参加。

また、南区制70周年記念イベント「カウントダウン70デイズ」で会のPRを行った。さらに、エコサロン掲示板に、「はまどま掲示板」を貼り、NORAの活動PRするなど、会として地域に新興できる土台が出来上がってきた。

3) 「私たちが選ぶ TPP と社会のゆくえ」

2014年7月15（月祝）、かながわ県民活動サポートセンター会議室402にて、「私たちが選ぶ TPP と社会のゆくえ——よくわからない TPP 参加への不安。「今さら聞けない」と言い訳せずに、岩上安身さんを迎えて考えます。」を開催した。参加者の数は54名と目標70名に及ばなかったが、セミナー後に設けた茶話会に37名が出席したことから、関心の高い方が多かったと思われる。

参院選の争点となりうる TPP をテーマであり、かつ日程的にもタイムリーなものだったために、政治的な意図を持った企画だと思われたふしもあった。しかし、特定の政党を支持しようと意図したもの

ではなく、TPP について考える場を設け、よく理解し納得した上で、これからの社会のゆくえを選ぼうという目的のセミナーであった。NORA が求める「里山とかかわる暮らし」は、政治・経済・社会・文化・スポーツなどと広く関係する。暮らしを私的な領域としてだけ捉えるならば、公共的な活動を進める NPO という形をとる必要はない。今後も、適宜、NORA の立場を社会に明確に伝えていくべきだとあらためて感じる機会となった。

里山の生物-文化の多様性保全に資する普及啓発、情報発信

5. イキモノ事業

1) 旬の里山探訪

NPO 法人新治里山「わ」を広げる会／新治里山公園運営プロジェクトが「にいはる里山交流センター」で実施しているイベントへ広報協力する形でおこなっている。実施主体は上記プロジェクトの自然観察／IP 部会。第 14 期は 10 回計画して 8 回実施し（2 回は雨天中止）、のべ 148 人（昨期は 7 回 106 人）の参加者あった。昨年は『新治の花暦 春編、夏秋編』の製作をおこなった。

実施日	内容	参加人数	スタッフ
7/3(水)	ユリの仲間を見つけよう	15	2
9/4(水)	秋の七草・新治バージョン	6	2
10/2(水)	里の秋	雨天中止	
11/6(水)	木の実・草の実	18	2
12/4(水)	野鳥観察入門	28	3
2/5(水)	春の七草を探そう	13	2
3/5(水)	早春の芽吹き	雨天中止	
4/2(水)	足もとの小さな花たち	25	2
5/7(水)	新緑の森を歩こう	25	2
6/4(水)	谷戸を楽しむ	18	2

148 17

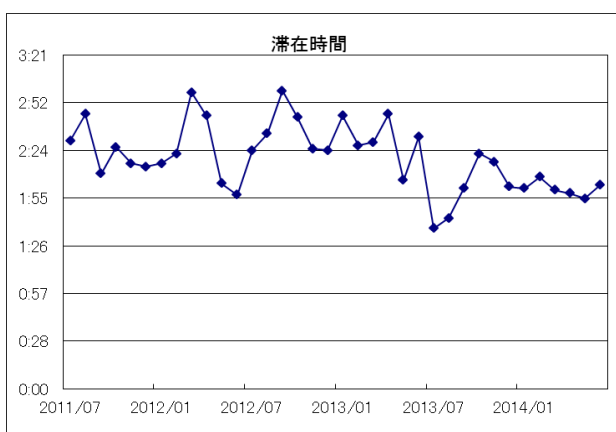
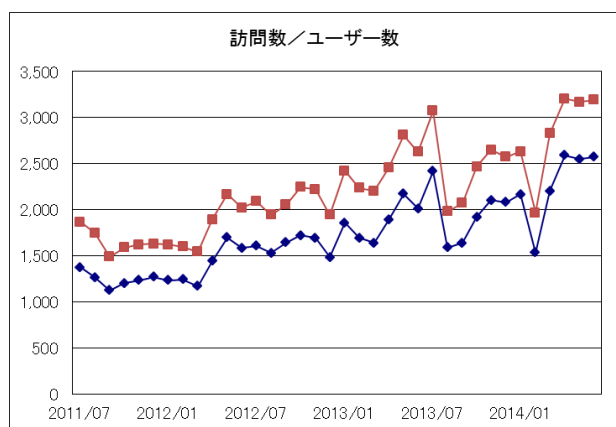
6. 広報事業

1) ウェブサイトの更新

第 14 期も、各プロジェクトの告知、報告のブログ記事アップなどの情報発信を定期的におこなった。また、「NORA の仲間たち」としてメルマガで紹介した団体をリンク集に掲載して、メルマガとサイトとの関係を深めた。多くの会員が更新作業に参加しているが、更新頻度は相当落ちているので、イベントの参加者をブログ記事の作成に巻き込むなどの工夫が求められる。

第 14 期の上半期は、昨期と比較してアクセス数が顕著に減少したが、ソーシャルメディアとの連携が奏功したのか、下半期に入ると回復し、2014 年 4～6 月は過去最高の水準に達した。1 年を通してのアクセス数は、訪問数が月平均 2,650（第 12 期 1,732→第 13 期 2,271→）と増加したが、閲覧回数 7,371（5,655→7,316→）は昨期と比べてほとんど変わらなかった。これは、新しいページの更新が滞りがちであることが要因と思われる。また、滞在時間は 2:00（2:23→2:33→）、直帰率は 63.6%（57.6%→57.8%→）と数値が下がっており、訪問者数の増加をそのまま喜べない状況にある。

なお、レイアウトの大きな変更を必要とする時期に差し掛かっているが、現在使用しているブログソフトウェアを変える必要が生じたので、これを契機として来期はサイトを全面的に見直すことを予定している。

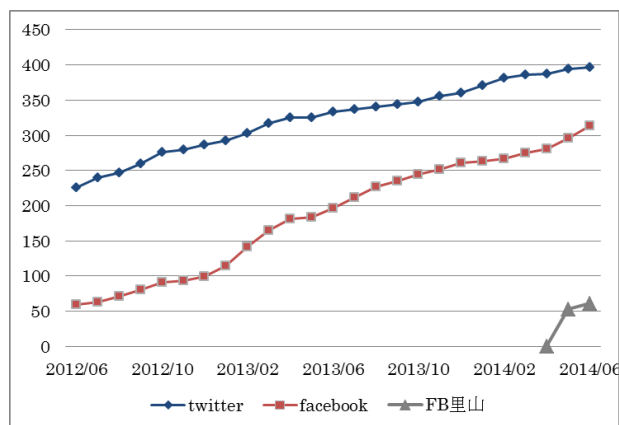
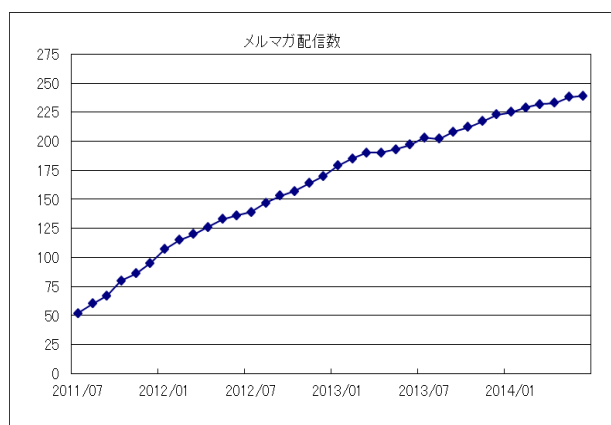


2) 「里山と暮らしをつなぐメールマガジン」配信

「里山と暮らしをつなぐメールマガジン」第62～73号を原則毎月1日に配信した。第65号（2013年10月1日号）から島村理事による連載「水の流れは絶えずして」が始まり、水に関わる話を綴っている。4人の理事がコラムを連載していることはメルマガの特徴となっているが、ジェンダー・バランスが悪いので、女性視点からの情報発信にも努めたい。メルマガは、会員には会員メーリングリスト経由で、事務局が把握している会友・関係者（852→1,001→1,121、各年6月現在）には直接メールで配信している。また、メルマガ発行サービス「まぐまぐ！」でも配信しているが、読者数はそれほど増えていない（247→265→286、各年6月現在）。

3) ソーシャルメディアによる情報発信

twitterを利用して情報を発信し、フォロワーも増加したが（240→337→396、各年6月現在）、ツイート数が減少している。むしろ、facebookでの情報発信に努め、「いいね！」の数を順調に増やした（63→212→326、各年6月現在）。また、2014年4月に「里山とかかわる暮らしを」というNORAのキャッチフレーズと同じ名称のグループを設け、暮らしの中で里山とかかわっていたり、里山とかかわることが大切だと思ったりするメンバーがfacebook上で情報を発信・共有できる場を設けた。それぞれのかかわり方をfacebookに投稿し、シェアすることによって、里山とかかわる暮らしが広がっていくことを目指したものである。2014年6月現在でメンバー数は73で、その後も着実に増えている。一方で、NORAのfacebookとグループ「里山とかかわる暮らしを」との使い分けが課題となっている。



協働・受託事業

里山に関する調査研究・コンサルティング・人材育成・講師派遣等

1) 京浜の森づくり事業エコツアー2013 運営委託 (委託者：横浜市環境創造局みどりアップ推進課)

＜実施期間：2013年9月-2013年12月＞

京浜臨海部では横浜市によって「京浜の森づくり事業」によって、公共緑地や企業緑地などでエコアップ（生態系に配慮した環境の改善）が進められている。本委託は、これらエコスポットを鶴見区、神奈川区を中心とした市民の方々や、地域のボランティアガイド等にその魅力を伝えることにより、次世代への地域の環境づくりに関する理解と新たな環境活動の発起の契機とするために実施された。

本ツアーは、一般公募で14名、地域の市民団体より15名ののべ29名の参加のもと、京浜部の緑地と比較するために、新治市民の森を見学した後、京浜臨海部の緑地を見学し、事業所敷地内の樹林地において、企業緑地の保全体験を実施した。参加者からのアンケートでは、全体として、京浜臨海部での取り組みを知る機会との意見もみられ、ツアー目的を達成できる内容であったといえる。

2) 生麦新子安地区の貨物線の森トンボ池作成 (委託者：生麦新子安地区緑のまちづくり協議会)

＜実施期間：2014年2月-2014年3月＞

2014年2月11日から3月8日の間の土曜日に5回にわたって貨物線の森でトンボ池を作成するためのワークショップを開催した。

ワークショップの目的は、協議会メンバーが京浜臨海部でのトンボ池の意義や作成方法を習得することであり、トンボ池はワークショップ終了後、6月までに協議会によって完成されるものである。

このためワークショップでは、既存のトンボ池見学、設計図の作成、既存トンボ池での池の管理体験、トンボ池づくり体験などを実施した。この結果、協議会メンバーはトンボ池づくりの基礎を学ぶことができたと考える。

3) 桜ヶ丘緑地における保全管理計画づくり (桜ヶ丘・水辺のある森再生プロジェクト)

保土ヶ谷区桜ヶ丘緑地の保全管理計画づくりのワークショップとゾーニング図の作成。最終仕上げができておらず、時間が経過しすぎたので見直しが必要。

4) 里山ガイドブック制作 (有隣堂)

有隣堂が直営で企画している「かながわ里山ガイドブック」について、原稿書きの進行中。ようやく今年度中に発刊できるかもしれない。

委員・講師派遣等

1) 委員

○吉武美保子

- ・神奈川県環境農政局公共事業評価委員会
- ・神奈川県自然環境保全審議会自然保護部会
- ・神奈川県里地里山専門委員会
- ・神奈川県立旭高校評議員
- ・横浜市地域まちづくり推進委員会表彰部会（横浜・ひと・まち・デザイン賞地域まちづくり部門）

○松村正治

- ・横浜市市民協働推進委員会

2) 講師・執筆

○吉武美保子

- ・11/13（水）神奈川県知事「対話の広場」里地里山の潜在力を考えよう コメンテーター
- ・1/13（月）・15（水）横浜市森づくりボランティア養成講座 講師
- ・3/17（月）都筑区農業ボランティア勉強会 講師
- ・4/24（木）はま農楽総会にて基調講演

○松村正治

- ・10/26（土）「プロのNPOをつくる7の講義」（横浜市市民活動支援センター）第3回「組織を“リ”デザインする」にて話題提供
- ・12/4（水）「JENESYS2.0」中国高校生訪日団第2陣外務省訪問・セミナーにて「見直される里山～自然とともにある暮らし」を講演
- ・12/9（月）「土とハグくむ市民の力」（横浜市市民活動支援センター）第5回「市民活動×農」にてコーディネーター
- ・12/21（土）明治大学学部間共通総合講座「里山入門」 講師
- ・3/1（土）明治大学黒川農場 里山シンポジウム パネリスト
- ・3/22（土）鎌ヶ谷市役所
- ・6/25（火）関東学院大学にて「現代の都市型社会における里山の価値」講演
- ・『グリーンレター』NO.35（富士フィルム・グリーンフレンズ）に「市民による身近な自然管理のこれまでとこれから―横浜における里山保全の動きを中心に」を寄稿

3) そのほか

[取材・広報など]

- ・横浜市市民活動支援センター
- ・11/29（金）韓国のNPO支援団体の視察対応
- ・12/16（月）フォーラム・アソシエ（生活クラブ生協系）からヒアリング
- ・『いなか暮らしの本』5月号（宝島社）関東エリアガイドに「NORAの山仕事」掲載
- ・『のんびる』5月号（パルシステム）に「NORA野菜市」掲載
- ・5/11（日）『環境ボランティア・なび2014』（関東EPO）の取材協力

活 動 計 算 書

(単位：円)

特定非営利活動法人よこはま里山研究所

自 2013年 7月 1日 至 2014年 6月30日

【経常収益】		
【受取会費】		
運営会員受取会費	120,000	
一般会員受取会費	102,000	
賛助会員受取会費	50,000	
【受取寄付金】		
受取寄付金	325,279	
【受取助成金等】		
受取助成金	668,000	
【事業収益】		
自主事業収益	771,944	
販売事業収益	122,599	
受託事業収益	752,500	
【その他収益】		
受取 利息	1,009	
雑 収 益	146,500	
経常収益 計		3,059,831
【経常費用】		
【事業費】		
(人件費)		
人件費計	0	
(その他経費)		
業務委託費(事業)	878,755	
諸 謝 金(事業)	150,232	
印刷製本費(事業)	18,107	
旅費交通費(事業)	119,300	
通信運搬費(事業)	7,115	
消耗品 費(事業)	158,841	
器具備品費(事業)	502,140	
修 繕 費(事業)	44,701	
減価償却費(事業)	149,446	
保 険 料(事業)	92,366	
調査研究費(事業)	7,200	
支払手数料(事業)	25,808	
販売仕入(事業)	121,541	
雑 費(事業)	2,241	
その他経費計	2,277,793	
事業費 計		2,277,793
【管理費】		
(人件費)		
人件費計	0	
(その他経費)		
通信運搬費	116,070	
消耗品 費	5,623	
水道光熱費	104,487	
地代 家賃	951,750	
諸 会 費	15,400	
租税 公課	196	
県民税利子割	(46)	
復興特別源泉税	(2)	
国税源泉所得税	(148)	
支払手数料	59,785	
雑 費	300	
その他経費計	1,253,611	
管理費 計		1,253,611
経常費用 計		3,531,404
当期経常増減額		△ 471,573
【経常外収益】		
経常外収益 計		0
【経常外費用】		
経常外費用 計		0
税引前当期正味財産増減額		△ 471,573
法人税、住民税及び事業税		70,000
経理区分振替額		0
当期正味財産増減額		△ 541,573
前期繰越正味財産額		7,421,685
次期繰越正味財産額		6,880,112

貸 借 対 照 表

特定非営利活動法人よこはま里山研究所
全事業所

(単位：円)

2014年 6月30日 現在

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		納税充当金	70,000
小口 現金	181,247	流動負債 計	70,000
普通 預金	5,929,505	負債の部合計	70,000
現金・預金 計	6,110,752	正 味 財 産 の 部	
(その他流動資産)		【正味財産】	
前払 費用	195,762	前期繰越正味財産額	7,421,685
その他流動資産 計	195,762	当期正味財産増減額	△ 541,573
流動資産合計	6,306,514	正味財産 計	6,880,112
【固定資産】		正味財産の部合計	6,880,112
(有形固定資産)			
機械及び装置	328,018		
有形固定資産 計	328,018		
(無形固定資産)			
電話加入権	89,880		
無形固定資産 計	89,880		
(投資その他の資産)			
敷 金	225,700		
投資その他の資産 計	225,700		
固定資産合計	643,598		
資産の部合計	6,950,112	負債・正味財産の部合計	6,950,112

財 産 目 録

特定非営利活動法人よこはま里山研究所
全事業所

(単位：円)

2014年 6月30日 現在

《資産の部》

【流動資産】

(現金・預金)

小口 現金	181,247
小口現金 (吉武)	(122,609)
小口現金 (ヤマ)	(22,861)
小口現金 (島村)	(3,426)
小口現金 (どま)	(8,300)
小口現金 (ノラ)	(19,087)
小口現金 (鈴木)	(4,964)
普通 預金	5,929,505
横浜銀行本郷台支店 (本部)	(3,073,203)
横浜銀行上大岡支店 (吉武)	(233,231)
横浜銀行阪東橋支店 (ヤマ)	(806,399)
横浜銀行阪東橋支店 (島村)	(406,565)
ゆうちょ銀行宿町 (どま)	(257,303)
ゆうちょ銀行振替	(1,152,804)
現金・預金 計	6,110,752

(その他流動資産)

前払 費用	195,762
その他流動資産 計	195,762
流動資産合計	6,306,514

【固定資産】

(有形固定資産)

機械及び装置	328,018
有形固定資産 計	328,018

(無形固定資産)

電話加入権	89,880
無形固定資産 計	89,880

(投資その他の資産)

敷 金	225,700
投資その他の資産 計	225,700

固定資産合計
資産の部 合計

643,598

6,950,112

《負債の部》

【流動負債】

納税充当金	70,000
流動負債 計	70,000
負債の部 合計	70,000

正味財産

6,880,112

監事監査報告書

特定非営利活動法人 よこはま里山研究所
理事長 松村 正治 殿

第14期事業年度（2013年7月1日から2014年6月30日まで）の事業報告、活動計算書、貸借対照表、財産目録を監査した結果、法令や定款に則して適切に処理、記載されていると認める。

以 上

2014年8月21日

特定非営利活動法人 よこはま里山研究所

監事 平石真司 

第3号議案 第15期事業計画（2014年7月～2015年6月）

第15期事業のキーワードは、①プロジェクト別コミュニティづくり、②人を巻き込むストーリーづくり、③サイトリニューアルにともなう広報戦略づくり、である。

まずは、これまで活動を積み重ねてきた「NORAの山仕事」（ML名：kawai）「はまどまプロジェクト」（ML名：domanakama）「もったいないから竹細工&竹を活かす山仕事」（ML名：takezaiku）を中心に、プロジェクトごとにコミュニティづくりを意識的に取り組んでいく。参加者のリピート率を高めるとともに、参加者を運営側に巻き込むように努め、非会員に対しては積極的に入会を促していく。また、「森と畑と音楽と」や「はまどまで土間仕事」といった新しいプロジェクトを軌道に乗せて、新領域を開拓しながら賛同者を増やし、会員数の拡大を図る。あわせて、コアなスタッフ以外でも企画を考案し、実施できる制度を検討し、新たな人材の発掘、活動の展開を図っていきたい。

「はまどまプロジェクト」については、「はまどま」への寄附金の増加が見込まれるので、収支構造は改善される見通しである。個別のイベントに近視眼的に取り組むのではなく、プロジェクトを通してどのように人びとを惹きつけ、巻き込むストーリーを描けるのか戦略を立て、年間計画を作成する。また、ウェブサイトのリニューアルを予定しているので、これを契機に広報戦略を再考する。サイト、twitter、facebook、メルマガなどの広報手段をどのように位置づけ、相互補完して相乗効果を狙うのか検討する。

以上のような取り組みは、既存の自主事業をもとに進めていくので、特に目新しいことではない。しかし、中心的にメンバーはすでに多くの仕事量を抱えているため、定例活動と並行して進めるのは容易ではないだろう。適当に役割を分担しながら、組織マネジメントが機能するような体制を構築する必要がある。

組織全体の収益性を高めるには、受託事業に取り組むことが求められる。とは言え、今の組織内の人的・物的資源は限られているので、社会からのニーズを勘案し、適宜、外部との連携も図りながら進めていく。

自主事業

1. ヤマ事業

1) NORAの山仕事 {別紙計画書のとおり}

2) 竹を活かす山仕事 {別紙計画書のとおり}

3) よこはま里山レンジャーズプロジェクト {別紙計画書のとおり}

4) 山道具の安全使用

株式会社シンコー社とのサブ店契約に基づき、より安全性を高めた緑地保全活動の啓発をすすめている。第15期も環境と安全に配慮した森林整備に必要な物品類を活動団体等に安価で販売するとともに、動力機器の安全使用のためのメンテナンス（修理）をおこなう。また、この収益を自主活動資金の一部とする。

5) ミルマップ・ワークショップ

『ミルマップ・ワークショップ！～みんなで描く森づくりプラン』をネット上からダウンロードできるようにし、考え方の普及を目指す。

2. ノラ事業

1) 森と畑と音楽と {別紙計画書のとおり}

3. ムラ事業

1) はまどまプロジェクト {別紙計画書のとおり}

(1) NORA 野菜市

(2) 神奈川野菜の食事会

(3) もったいないから竹細工

(4) 筆で描こう～手書きの時間

(5) はまどまで土間仕事

4. ハレ事業

1) 伊勢佐木町地モノ市

2014 年 11 月 3 日（月祝）、伊勢佐木町 3-7 丁目商店街のエコ商店街活動「あなたと一緒にエコロジーイセザキ」に参加。県内生産者の明らかな農産物即売と試食を、ボランティアスタッフによって運営する。販売額の 10%を「はまどま運営費」に入金。

2) まいたエコサロンの会

まいたエコサロンの会の一員として、適宜、ネットワーク活動に協力する。

3) NORA サロン、NORA セミナー

およそ 2 ヶ月に 1 回のペースで NORA サロンを開催する。運営連絡協議会のメンバーが輪番制で企画を立てていく。このほか、時機を見て、NORA セミナーを開催する。

5. イキモノ事業

1) 旬の里山探訪 {別紙計画書のとおり}

6. 広報事業

1) ウェブサイトの更新

twitter・facebook との連携を進めるほか、ブログ記事・情報の更新頻度を上げ、より効果のある広報媒体を目指す。記事の掲載については、一部の会員に負担が集中しないよう役割分担を進める。

2) 「里山と暮らしをつなぐメールマガジン」配信

ウェブサイトと連携しながら、月に 1 回以上定期的に配信して、効果的に情報を発信する。

3) ソーシャルメディアによる情報発信

twitter・facebook を利用して、柔軟に迅速に情報を発信する。

協働・受託事業

適宜、社会のニーズに応じて協働・受託事業を進める。

委員・講師派遣

行政・NPO・大学等からの求めに応じて、里山保全や市民活動等に関する委員・講師を派遣する。ボランティア体験、インターンシップの受入は、可能な限り引き受ける。

プロジェクト名	NORA の山仕事		
カテゴリー	ヤマ		
リーダー	下山康博		
スタッフ	中林博志、大嶋邦佳		
目的 (箇条書きで記入)	・「利用する森」をコンセプトにして、手入れによって豊かな森をつくる。 ・森の恵みを様々なかたちで利用して、森とかかわる暮らしを横浜で実践する。		
目標 (今期の具体的な目標を 箇条書きで記入)	・横浜市所有地での徐伐・間伐作業、私有地での維持管理作業の実施 ・市所有地内に、新たな活動ベースを設置できるように作業を計画的に進める ・植樹活動の拡充 ・間伐材の有効活用を図り、活動の幅を広げる ・活動に関わるスタッフ・メンバーのスキルアップ ・新規参加者の継続的参加を誘致 ・間伐材の有効利用を図るため、市内他緑地の製材を指導する ・動力工具の安全な使用を心掛ける		
内容	常緑樹の除伐や下草刈、落葉樹苗の育苗から定植など、豊かな森づくりを目標に作業を行っている。除伐した材を有効活用するために、丸太を製材しスツールなどの木工品を製作したり、薪などにも利用している。		
日時	毎月第 2・第 4 日曜日 10:00～15:00		
場所	川井特別緑地保全地区(旭区下川井町)		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は 実施日のスケジュール)	10:00 県立旭高校に集合 ミーティングで作業内容、使用道具等を決める 10:30 現場にて作業開始 12:00 昼食 13:00 作業開始 15:00 作業終了 物置前にて道具の整備、活動の振り返りと予定を確認 16:00 解散		
一般募集の有無	NORA メルマガ・HP などの広報媒体で一般募集		
参加費の有無	無(ただし、今後はグリーンボランティア保険加入料として@500 円程度を予定)		
収入見込額(a) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	活動協賛金 100,000 円(BESS) 作業支援費 90,000 円(製材や間伐など) 消耗品販売収益 10,000 円 資材販売費 10,000 円 計 210,000 円		
支出見込額(b) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	グリーンボランティア保険 60,000 円(@3,000 円×20 回程度) 製材実技指導料 75,000 円 消耗品(燃料・工具修理等) 45,000 円 他プロジェクト経費補填 30,000 円(県補助事業自己負担分) 計 210,000 円		
収支見込額(a-b)	0 円		
備考(他団体との連携 等を適当に記入)	神奈川県立旭高校、横浜建物管理協同組合、株式会社アールシーコア(BESS)		
作成年月日	平成 26 年 8 月 18 日	作成者名	下山康博

プロジェクト名	竹を活かす山仕事 (平成 26 年度神奈川県水源環境保全・再生市民事業支援補助金)		
カテゴリー	ヤマ		
リーダー	下山康博		
スタッフ	山口和美		
目的 (箇条書きで記入)	・畑や水源林である山々を侵食する竹林の手入れをおこなう。 ・竹林整備を行なうことで、恵ある里山の生態系を維持する。 ・整備活動によって排出された竹材を有効活用する。 ・竹材を有効活用して、都市部に暮らす人々に竹林整備の普及啓発へつなげる。		
目標 (今期の具体的な目標を 箇条書きで記入)	・事業への継続的な参加者を募る ・事業の運営を共に担うスタッフを募る ・他団体が実施するイベントへ積極的に参加し、事業への協力者を募る		
内容	南足柄郡中井町にある竹林において、竹の間伐作業をおこなう。切り出した竹は、竹ひご作りの練習用に用いたり、ミニ灯籠を製作する材料として活用する。		
日時	毎月、日曜日 10:00～15:00 ※8～9 月の間は、伐り出し作業は中止		
場所	南足柄郡中井町		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は 実施日のスケジュール)	9:00 京浜急行上大岡駅集合 (9:45 JR 二宮駅集合) 10:00 現地到着 作業開始 12:00 昼休み 13:00 作業再開 14:00 作業終了 材の積み込み 15:00 現地解散		
一般募集の有無	NORA メルマガ・HP などの広報媒体で一般募集		
参加費の有無	500 円		
収入見込額(a) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	参加費	15,000 円(@500 円×3×10 回)	
	ヤマ仕事から補填金	25,000 円	
	市民事業補助金	159,000 円	計 199,000 円
支出見込額(b) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	物品費	66,000 円	
	旅費交通費	20,000 円	
	保険料	3,000 円	
	報償謝礼費	100,000 円	
	事務費	10,000 円	計 199,000 円
収支見込額(a-b)	0 円		
備考(他団体との連携 等を適当に記入)			
作成年月日	平成 26 年 8 月 18 日	作成者名	下山康博

■NORA/第 15 期プロジェクト計画書(2014 年 7 月～2015 年 6 月)

プロジェクト名	よこはま里山レンジャーズ		
カテゴリー	ヤマ		
リーダー	島村雅英		
スタッフ (リーダーを除く)	松村正治、下山康博、吉武美保子、中林博志 認定 NPO 法人自然環境復元協会(連携団体)スタッフ		
目的 (箇条書きで記入)	・特に若者が里山保全活動に参加する。 ・プロジェクト実施の持続性を検討し、プロジェクトを実施する ・成果を普及する		
目標 (今期の具体的な目標を 箇条書きで記入)	・プロジェクト実施継続のための資金調達を確保する。 ・のべ 10 回のプログラムを実施する。		
内容	事業所や指定管理者などからの活動資金提供を模索しながら、引き続き、自然環境復元協会と連携して、レンジャーズ派遣をおこなう。 作業内容は、基本的に下草刈り、間伐材の搬出、簡単な枝打ち、落ち葉かきなど軽作業を基本とし、チェーンソーによる伐採等危険が伴う作業はおこなわない。		
日時	不定期、計 10 回程度		
場所	恩田の谷戸、カーリットの森、桜ヶ丘緑地、川井緑地、瀬上市民の森、新治、入船公園		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は 実施日のスケジュール)	8 月:既存の受け入れ団体との活動調整 活動資金調達の検討 9 月～1 月:フィールドでボランティアによる活動		
一般募集の有無	NORA メルマガ・HP、自然環境復元協会からのレンジャーズに呼びかけ (活動に参加する前にレンジャーズに登録する必要あり)		
参加費の有無	無		
収入見込額(a) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	企業等資金調達	100,000 円	計 100,000 円
支出見込額(b) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	報償費 50,000 円(コーディネーター等謝金) システム使用料 50,000 円(自然環境復元協会)		計 100,000 円
収支見込額(a-b)	0 円		
備考			
作成年月日	平成 25 年 8 月 12 日	作成者名	島村雅英

■NORA/第 15 期プロジェクト計画書(2014 年 7 月～2015 年 6 月)

プロジェクト名	森と畑と音楽と		
カテゴリー	ノラ		
リーダー	中川樺		
スタッフ			
目的 (箇条書きで記入)	・休耕農地を再生することで、畑の維持管理を体験する。 ・参加者が土作り・作付け・育成・収穫など一連の農作業を体験し、野菜を育て収穫する喜びを体感する。 ・山仕事プロジェクトにて排出される丸太材の保管および製材場所として活用する。 ・常時作付けが可能なように土地を管理する。		
目標 (今期の具体的な目標を 箇条書きで記入)	・継続的に関わられるメンバーを増やす。 ・事業への協賛者を増やす。 ・メンバーのスキルアップを図る。		
内容	・農地管理(草刈り・草取り・耕耘) ・野菜育成(作付・施肥・追肥・病虫害管理・収穫) ・収穫体験の実施 ・活動場所で採れた野菜を使った料理 ・林産物の活用 ・子ども向け環境教育の実施 ・音楽会の実施		
日時	基本的に毎週土曜・日曜 10:00～17:00 (不定期:要連絡)		
場所	厚木市七沢		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は 実施日のスケジュール)	7 月 収穫作業 草刈り 種まき(にんじん・キャベツ・ブロッコリ・カリフラワー) 8 月 収穫 草刈り 畝作り 種まき(かぶ・大根・白菜) 種植え(じゃがいも・にんにく) <u>8 月中旬 子どもキャンプ</u> 9 月 草取り 定植(キャベツ・ブロッコリ・カリフラワー) 種まき(上旬:白菜・大根・かぶ 中旬:じゃがいも・ほうれん草・小松菜・春菊 下旬:にんにく) 10 月 草刈り草取り 追肥 収穫作業 小麦種蒔 <u>11 月中旬 収穫祭・音楽会</u> 11～1 月 収穫作業、2～3 月 耕作 4 月 種まき(トマト・きゅうり・茄子・ピーマン) 中旬～下旬 草刈り 耕運 設肥 5 月 定植(トマト・きゅうり・茄子・ピーマン) 中旬～下旬 種まき(枝豆・トマト・きゅうり・茄子・ピーマン・カボチャ) 草刈り・畝作り <u>5 月初旬 年度初めのお披露目会(BBQ)</u> 6 月 種まき(オクラ・モロヘイヤ) 苗植え(サツマイモ) 草刈り		
一般募集の有無	NORA メルマガ・HP などの広報媒体で一般募集		
参加費の有無	有(参加プログラムによる)		
収入見込額(a) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	年会費 50,000 円(@5,000×10 人) 参加費 50,000 円(@1,000×50 人・回) 施設使用料 20,000 円(@20,000×1 回子どもキャンプ)		計 120,000 円
支出見込額(b) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	消耗品費 55,000 円(種苗 20,000 円、肥料・薬剤 15,000 円、資材 20,000 円) 借地料等 40,000 円(借地料 20,000 円、電気代 20,000 円) その他雑費 20,000 円(ガソリン・混合用オイルなど)		計 115,000 円
収支見込額(a-b)	5,000 円		
備考			
作成年月日	平成 26 年 8 月 17 日	作成者名	中川樺

■NORA/第15期プロジェクト計画書(2014年7月～2015年6月)

プロジェクト名	NORA 野菜市		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	三好豊		
スタッフ (リーダーを除く)	(インターンシップ、ボランティア、若者のジョブトレーニングなどを積極的に受入)		
目的 (箇条書きで記入)	・「神奈川・緑の劇場」の取り組みを支援し、連帯する活動。 ・地産地消の日常的な実践の場。 ・NORA の活動を広く知らせ、仲間を募る場。		
目標 (今期の具体的な目標を 箇条書きで記入)	・変わらず変えず継続することを目標にしてきたが、今後は、どう変えていくかを考えながら継続する。 (NORA 野菜市もこの秋で 10 年が経過。NORA の仲間たち、大和ビル関係者、多くの利用を通して支えてくださった皆様に深く感謝)		
内容	・地場野菜の旬・適地適作・調理方法など、農産物の利用・情報を通して学ぶ。 ・生産者との交流の場に参加し、相互理解を深める。 ・販売ボランティアスタッフになり利用する人とのコミュニケーションを図る。 ・都市生活と生産者・農業との繋がりが強く感じられ、都市での暮らし方を見直すきっかけの場として活かす。 ・TPPをはじめ、当面する課題の情報提供が必要になる。		
日時	毎週火曜日 17～19 時		
場所	大和ビル駐車場および「はまどま」		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は 実施日のスケジュール)			
一般募集の有無			
参加費の有無			
収入見込額(a) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)			
支出見込額(b) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)			
収支見込額(a-b)			
備考 (他団体との連携等を適 当に記入)			
作成年月日	2014年 8 月 12 日	作成者名	三好豊

■NORA/第14期プロジェクト計画書(2014年7月～2015年6月)

プロジェクト名	神奈川県野菜の食事会		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	三好豊		
スタッフ	(土間仕事と連携した企画や生産者訪問と繋げた企画などを通して、スタッフ参加を楽しめる工夫を模索していく)		
目的 (箇条書きで記入)	次の世代に引き継ぐための活動を意識して続けてきたが、すでに次世代の活動が伝わり、見えてきている。彼らを勇気づけることにも尽くしたい。		
目標 (今期の具体的な目標を 箇条書きで記入)	一回一回の食事会のテーマが具体的になってきた。季節によっては、開催頻度が高くなる期間も出てくるが、複数のリーダー的なスタッフが担当することで可能になるはず。年間計画を策定して進めていきたい。		
内容	・地場野菜の旬・適地適作・調理方法などを農産物の利用・情報を通して学ぶ。 ・生産者との交流をはかり相互理解を深める。 ・会員と会員紹介の参加者同士のコミュニケーションをはかる。 ・都市生活と生産者・農業とのつながりが強く感じられ、都市での暮らしを見直すきっかけの場として活かす。		
日時	不定期。準備 15:00～食事会 18:00～21:00		
場所	はまどま		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は 実施日のスケジュール)			
一般募集の有無	会員と会員紹介者を中心に、一般の参加も促す。		
参加費の有無	会員家族 1,000 円／一般 1,500 円・小学生 500 円		
収入見込額(a) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)			
支出見込額(b) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)			
収支見込額(a-b)			
備考 (他団体との連携等を適 当に記入)			
作成年月日	2014年 8 月 12 日	作成者名	三好豊

■NORA/第 14 期プロジェクト計画書(2014 年 7 月～2015 年 6 月)

プロジェクト名	もったいないから竹細工 (平成 26 年度神奈川県水源環境保全・再生市民事業支援補助金)		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	下山康博		
スタッフ	講師:中元秀幸氏(NPO 法人日本の竹ファンクラブ) アシスタント:山口和美		
目的 (箇条書きで記入)	・竹林整備で排出された竹材を有効活用する ・竹材から竹ひごを製作し、竹籠などの竹細工を作る ・竹細工の技術を身近に感じてもらい、ものづくりの楽しさを体験する		
目標 (今期の具体的な目標を 箇条書きで記入)	・新規を含めた参加者の継続的な関わりを推奨する ・参加者のスキルアップ ・竹から竹ひご作りなど、参加者が材を作れるように促す		
内容	毎月第 2 土曜日、中元秀幸氏を講師に招き、竹細工講習会を実施する。参加者が作る作品は、1 回の講習会で仕上がるものから、3 回程度にわたり時間を掛けて製作するものまで多岐にわたる。作った作品は、参加者がそれぞれに持ち帰ってもらう。 7 作品(全 12 回)にて一区切りをつけ、工房作業への参加を促す。 毎月第 4 土曜日には、竹ひご作りの練習や竹かご製作、竹の灯籠づくりなどのワークショップを開催する。		
日時	毎月第 2 土曜日(竹かご教室) 第 4 土曜日(工房作業) 13:00～16:00		
場所	はまどま		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は 実施日のスケジュール)	< 上記参照 >		
一般募集の有無	定員 10 名 (NORA メルマガ・HP などの広報媒体で一般募集)		
参加費の有無	@2,000 円		
収入見込額(a) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	参加費 168,000 円 (@2,000×7 名×12 ヶ月) ヤマ仕事補填金 5,000 円 神奈川県補助金 690,000 円 計 863,000 円		
支出見込額(b) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	物品費 141,000 円 旅費交通費 24,000 円 使用料及び賃借料 120,000 円 報償・謝礼費 568,000 円 事務費 10,000 円 計 863,000 円		
収支見込額(a-b)	0 円		
備考			
作成年月日	平成 26 年 8 月 18 日	作成者名	下山康博

■NORA/第 14 期プロジェクト計画書(2014 年 7 月～2015 年 6 月)

プロジェクト名	筆で描こう～手書きの時間		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	勝野真美		
スタッフ (リーダーを除く)			
目的 (箇条書きで記入)	・表現の枠を広げるツールの1つとして、筆を使ってもらいたい。 ・上手い下手はなくて、個性を前面に出した作品の方が価値があることを伝えたい。 (脱・没個性。アートな筆文字の域を勉強し直す気持ちで新たな【筆で描こう】を開催していく。)		
目標 (今期の具体的な目標を 箇条書きで記入)	・子ども向けの筆講座の開催(はまっこ等で5回の出張を開催した)。 ・家で筆を使うのは汚れて憚れることもあるので、はまどまで触れてもらいたい。 ・漢字の成り立ち等も含めて、漢字を習っていないくても、その文字の成り立ちや意味から想像する文字を創造してもらおう。		
内容	基本の筆のストロークから、画材の違いを確かめながら、作品を描く。		
日時	不定期だが、第3日曜日が基本 10:00～13:00		
場所	はまどま		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は 実施日のスケジュール)	10:00 はまどま集合、基本ストロークの復習など 10:30 スケッチに出発 11:00 はまどまにて帰着、色付け 12:00 作業終了、後片付けと講評 12:30 解散		
一般募集の有無	NORA メルマガ・HPなどの広報媒体で一般募集		
参加費の有無	会員 2,500 円／一般 3,000 円		
収入見込額(a) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	一人あたり 2,000～1,500 円		
支出見込額(b) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	画材費等、一人あたり 500 円～1,000 円(描く素材によって金額は流動的)		
収支見込額(a-b)	500 円 ※一人当たり 500 円をはまどまへ		
備考 (他団体との連携等を適 当に記入)	お香(粕谷恵)とのコラボ講座を今後継続していく。		
作成年月日	2014 年 8 月 15 日	作成者名	勝野真美

■NORA/第 14 期プロジェクト計画書(2014 年 7 月～2015 年 6 月)

プロジェクト名	はまどまで土間仕事		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	勝野真美		
スタッフ (リーダーを除く)			
目的 (箇条書きで記入)	・今まで買っていたものを、少しづつ手作りしていく。 ・神奈川産の季節の果菜で、保存食や調味料を作る。 ・発酵を通じて知り合った仲間にも来てもらって、入門編の講座も開催したい。		
目標 (今期の具体的な目標を 箇条書きで記入)	はまどまで作った1回がきっかけになって、次回もみんなで集まってはまどまで…年に数回のことはあるが、おしゃべりしながら、お茶をのみながら、ご飯を食べながら…まさしく土間仕事のように1回1回、丁寧に開催していく。		
内容	味噌やぬか漬、梅酒やらっきょう等の季節の手仕事を伝えていく。		
日時	季節に合わせて。		
場所	はまどま		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は 実施日のスケジュール)	10:00 手仕事はじめ 12:00 作業終了、後片付けと講評 ※午後にランチ付の日もあり		
一般募集の有無	有：人数未定 (NORA メルマガ・HP などの広報媒体で一般募集)		
参加費の有無	一般・会員 3,000 円※開催する食材で変動		
収入見込額(a) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	一人あたり 3,000 円		
支出見込額(b) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	材料費等で 2,000 円		
収支見込額(a-b)	1000 円 ※一人当たり 500 円をはまどまへ		
備考 (他団体との連携等を適 当に記入)			
作成年月日	20014 年 8 月 15 日	作成者名	勝野真美

■NORA/第 14 期プロジェクト計画書(2014 年 7 月～2015 年 6 月)

プロジェクト名	旬の里山探訪		
カテゴリー	イキモノ		
リーダー	吉武美保子		
スタッフ (リーダーを除く)	新治里山公園運営プロジェクトのメンバー (新治里山「わ」を広げる会への協力)		
目的 (箇条書きで記入)	新治の自然の魅力をその折々に伝えることで、大切に思う仲間を増やすこと。		
目標 (今期の具体的な目標を 箇条書きで記入)	・テーマを絞った散策会とし、スタッフがそのテーマに応じた案内ができること。 ・ガイドの幅や深みが増すように研修をおこなう。		
内容	午前中 2 時間程度のルートで、テーマに沿った解説を行いながら、散策する。 スタッフは 2 名。		
日時	毎月第 1 水曜。 午前 10 時～12 時		
場所	にいはる里山交流センター集合		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は 実施日のスケジュール)	< 上記参照 > 8 月、1 月はお休み		
一般募集の有無	あり		
参加費の有無	200 円		
収入見込額(a) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	にいはる里山交流センター事業への協力のため、NORA への収入はなし。		
支出見込額(b) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)			
収支見込額(a-b)			
備考 (他団体との連携等を適 当に記入)	新治里山「わ」を広げる会／新治里山公園運営プロジェクトへの協力		
作成年月日	2014 年 8 月 17 日	作成者名	吉武美保子

第4号議案 第15期（2014年7月～2015年6月）予算

[収入]

科目	第13期決算額	第14期予算額	第14期決算額	第15期予算額	備 考
会費	342,000	500,000	272,000	350,000	運営会員@12,000*15+一般会員@3,000*40+賛助会員@10,000*5
自主事業	687,065	700,000	771,944	800,000	はまどま500千円（野菜市300千円）、各事業参加費等
販売収入	7,060	270,000	122,599	80,000	チェーンソー関連消耗品販売60千円
受託	1,827,000	400,000	752,500	300,000	間伐・製材90千円
助成金	1,969,222	1,000,000	668,000	1,000,000	神奈川県849千円、林野庁816千円（未定）
寄付金	781,685	450,000	325,279	900,000	prudential生保250千円、企業協賛100千円、エコアップ研420千円
雑収入	126,336	120,000	147,509	100,000	講師謝金等
当期収入合計（A）	5,740,368	3,440,000	3,059,831	3,530,000	

[支出]

	科目	第13期決算額	第14期予算額	第14期決算額	第15期予算額	備 考
事業人件費	給料手当	0	0	0	0	主任研究員給料
	臨時雇賃金	0	0	0	0	
	福利厚生費	0	0	0	0	
	法定福利費	0	0	0	0	社会保険料、労災保険料
事業経費	事業委託費	1,009,200	800,000	878,755	600,000	受託事業外注費、サイト設計300千円
	諸謝金	1,817,141	300,000	150,232	750,000	竹細工謝礼568千円、竹伐り100千円、会計入力
	印刷製本費	51,600	250,000	18,107	10,000	報告書印刷、コピー代
	旅費交通費	2,620	50,000	119,300	50,000	
	通信運搬費	118,208	0	7,115	10,000	電話、IT、郵送料、宅急便、備品送料
	消耗品費	447,902	100,000	158,841	220,000	竹細工関連141千円、工具
	器具備品費	0	300,000	502,140	50,000	
	修繕費	21,000	10,000	44,701	25,000	
	賃借料	4,200	0	0	120,000	竹細工120千円
	減価償却費	217,535	60,000	149,446	102,669	簡易製材機
	保険料	114,268	120,000	92,366	100,000	グリーンボランティア保険60千円、イベント保険36千円
	諸会費	5,400	10,000	0	5,000	町内会費、ネットワーク団体会費
	調査研究費	2,000	10,000	7,200	10,000	資料購入、研修会参加
	支払手数料	13,660	15,000	25,808	20,000	
	広告宣伝費	15,750	10,000	0	10,000	
	会議費	0	20,000	0	5,000	会議室料、茶代等
	販売仕入	19,751	20,000	121,541	50,000	
	雑費	38,065	10,000	2,241	5,000	
管理費	通信運搬費	1,590	120,000	116,070	120,000	
	消耗品費	28,300	20,000	5,623	30,000	会計ソフト等
	水道光熱費	111,289	110,000	104,487	120,000	
	地代家賃	945,700	950,000	951,750	972,000	家賃@81,000*12
	諸会費	10,000	10,000	15,400	10,000	
	租税公課	220	5,000	196	5,000	
	支払手数料	172,735	50,000	59,785	50,000	ネットバンキング25千円、振込手数料
	交際費	0	0	0	5,000	
	雑費	801	0	300	5,000	
	固定資産除却損	21,621	0	0	0	
経常外	法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	70,000	70,000	
	当期支出合計（B）	5,260,556	3,420,000	3,601,404	3,529,669	
	当期収支差額（A）-（B）	479,812	20,000	-541,573	331	